

今年的美濃いび茶吟味



一番茶共販会

県内有数のブランド茶「美濃いび茶」の今季初の一番茶共販会が2日、揖斐郡揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターで行われた。岐阜、愛知両県の小売、卸売業者が出来を吟味し、入札した。

(杉原康仁)

美濃いび茶は、同町と同郡池田町の約200畝で栽培されている特産茶。今年は、3月に気温が低く、雨が少なかったため生育が例年よりも遅れたが、4月以降は気温が上がり、適度に雨が降ったことで味わいの深い良質な茶葉に育っているという。

初日の共販会には、共同茶工場3カ所が37点計38

3点を出品した。小売、卸売の16業者21人は茶葉を手にとって色や香り、形などをじっくりと確認した。1

キ当たりの平均落札額は3038円。最高価格は昨年より1万7千円高い5万円、高山市本町の松風園まつ茶舗が落札した。

一番茶の共販会は今年20日まで6回開く予定。出荷量は、二番茶なども含む全体で例年並みの約240トを見込んでいる。

一番茶の色や香り、形などを吟味する販売業者ら＝揖斐郡揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター

最高価格は1キ5万円